

第2回宮崎海岸市民談義所 議事概要

日時：平成 21 年 5 月 30 日(土)

場所：佐土原町総合文化センター

事務局より開会の挨拶、国、県の出席者の紹介を行った後、市民連携コーディネータの進行により議事が進められた。

まず、事務局より「談義所の役割」について説明した後、「これまでに頂いた意見の整理・回答等」を行い、質疑応答を行った。続けて、事務局より、「委員会・技術分科会での検討状況と本日の談義の内容」について説明を行い、質疑応答の後、「市民が考える、対策の条件・配慮すべき事項」に関するワークショップが行われた。

ワークショップでは、市民等の参加者が「実施して欲しくないこととその理由」、「実施して欲しいこととその理由」、「海岸の現状」を名前とともに記入した付箋を宮崎海岸の航空写真の上に貼った後、市民連携コーディネータの司会で、市民の参加者の間で談義が行われた。

また、最後に宮崎海岸市民談義所の進め方についての質疑応答を行った。

質疑の内容、談義の内容等は以下の通り。

(質疑の内容)

質問：事務局が質問に対する検討の状況を説明しないと意見への回答にならない。地盤沈下についても、検討の状況が説明されていない。

回答：今回の回答で全て皆様からの意見に回答したというつもりではない。今後も引き続き、情報提供等していきたい。尚、地盤沈下については、情報を収集中である。

質問：地盤沈下のことだけでなく、局所的な現象と温暖化などの地球規模的な現象との仕分けを明確にし、検討して行ってほしい。

回答：了解

質問：宮崎県中部流砂系委員会については誰が設置したものか、また、宮崎海岸との関係や、現在の検討状況についても教えて欲しい。

回答：委員会は、行政を含め 20 名の委員からなる国土交通省宮崎河川国道事務所が設置したものである。侵食原因は、ダムの建設、河川改修による海に出る土砂の減少、海岸構造物により土砂の流れの変化があると考えられている。それぞれの施設には、治水や利水、物流など個々に目的があるが、山から海まで連携して砂の動きをとらえ、実施可能なことは協力して、改善していくことが重要。現在、問題意識を共有した段階であり、これから実施可能な事を検討していく。

質問：護岸が侵食の原因ではないのか？

回答：護岸によっても土砂の流れに変化があり、侵食の原因の1つになると考えている。

質問：これまでトライアングルの説明を何度もされているが、3すくみになり、解決の方向を見出すのが大変であると思う。ダム、港の撤去などの話に発展する事も予想されるが、そのような心づもりはあるのか。

回答：まずは、この談義所で議論を掘り下げ、方向性を見出すことを目指したい。また、最後は事業主体である我々が、市民の意見や専門家の助言を踏まえて、責任を持って判断する。

質問：昨年度、大淀川、三財川の土砂を用いた養浜を実施してきたが、それをどう評価しているのか？

回答：現在、モニタリングを実施中であり、談義所でも調査結果を情報提供していきたい。

質問：養浜後、魚が減り、釣り人を見かけなくなった。

回答：養浜の影響については、現在、モニタリングを実施中であり、談義所でも調査結果を情報提供していきたい。

質問：養浜した箇所は砂の固さを調べているのか？

回答：浜の固さまでは調べていない。今後、検討していきたい。

質問：養浜箇所は、車の乗り入れが多く、また、オートバイも走っている。埃がたつし、何とかして欲しい。

回答：後で、詳しく状況を教えて頂きたい。

質問：佐土原の海岸を見てきた。護岸はどのようなプロセスでつくられたのか？行政判断か？

回答：行政の判断で行ったものである。

質問：土砂収支の図の内容は私の認識と異なる部分があるが誰が作成したものか。住吉から宮崎港への矢印は根拠がないと思うし、一ツ瀬川右岸の導流堤は沈下している。高鍋も侵食していると地元の人から聞いている。

回答：国土交通省が作成したものであり、前回の委員会で現在推定されるものとしては概ね了解頂いたものである。ただし、昭和58年以降の測量データと、測量データがない区間については航空写真の水際線の変化から推定したものであり、みなさんの経験からくる認識と異なる部分があるかもしれない。住吉から宮崎港への矢印に特化した議論は無かったと思われるので、改めて確認したい。

(談義の内容)

参加者：車の乗り入れの98%はサーファーである。

参加者：石崎川近くには貴重な植物がいるが、車に踏みつけられている。

参加者：釣り人も乗り入れているが、サーファーが目立つのか、いつもサーファーが指摘される。車上あらしがあるので、海から見えるところに車を置いておきたい。この問題について、仲間と情報共有することはできる。

参加者：ウミガメなどの関係で、ここまでは乗り入れは駄目という事を教えていただければそうする。今はそれがわからない。

事務局：車の乗り入れの問題について、(ウミガメ、植物、サーフィン、釣り)などの様々な観点からの意見が市民からあげられたので、別途、市民によるルール作りの場を設ける。

(ワークショップで付箋に記入された市民の意見)

赤色の付箋紙：実施してほしくないこと(その理由)

青色の付箋紙：実施してほしいこと(その理由)

黄色の付箋紙：海岸の現状 ※皆さんに知ってもらいたいこと

場所	色	意見
全体	青	魚貝類の調査。水深 10m付近が一番重要だと漁業関係者が言われている。具体的なデータ
	青	養浜の土台としてフォレストベンチ工法で試験施工！
	青	浜ガケ防止としてもフォレストベンチ工法の試験施工を是非お願いします。
	青	防波堤としてフォレストベンチ工法を試験施工！
	青	離岸堤をコンクリートでなくフォレストベンチ工法での試験をお願いします。
	青	水深 15m砂の粒子分布、水深 10m砂の移動分布
	青	浸食が進んでいる全てのところにコンクリートを使用せずに、試験施工を考えて欲しい。
	青	沖合の海底(底形)の調査(砂のつき方)
	黄	動物園がサーフィンのポイントと思われているが全域で行なわれているので一部だけを残すのではなく・・・
	黄	宮崎に来て 10 年サーフィンできる所が砂がなくなって多数消滅しました
	赤	海岸付近への立ち入り禁止等ならないようにしてほしい(全ての人利用できる海)
	赤	不用な突堤を取除くべき
	赤	全域で新規の植林
	赤	全域で護岸等の新規の設置
	赤	原因解明する前に工法をきめないでほしい
赤	目先の対処療法だけで多額の税金使うのやめて、次世代のことを考えて。T字は×	

佐土原町 浄化センター 付近	青	流木養浜工
	青	砂抄工法
	青	松林。松以外の雑木もきらないで育ててほしい
石崎川付近	青	砂抄工法
	青	地盤沈下の調査・原因・影響
	青	海岸保全(木で)というのを試しにやってほしい
	青	大炊田海岸での海岸植林とそのための防波堤の撤去。植林の海岸への進出をストップ。
	青	この辺の湿地帯の植物を国立公園 国定公園 天然記念物のような保護地区にしてほしい
	青	日本でひとつしかないといわれているヒルガオ(き少種)を車でふんでいく人がいるので注意してほしい
	青	海浜植生工
	青	石崎浜へアカウミガメの上陸期間(5月～10月)は車両乗り入れを禁止処置をしてほしい
	青	車の海岸への乗り入れ禁止
	青	原則 海岸を立入禁止(正し行楽のため) 最低車両禁止にして砂に生える植物をふやしてほしい
	青	養浜
	青	流木養浜工
	黄	この辺は台風のとくに水没するものの、めずらしい植物や木や虫がたくさんあり土地が保全されているもと湿地帯
	黄	石崎浜 現在は車両乗り入れ自由であり、土日等のサーファーの車両がおびたしい。
	赤	この辺には、企業や開発や個人に誘地しないでほしい
赤	車の乗入禁止	
赤	石崎浜 車両乗り入れをしてほしくない	
住吉 I C 付近	青	流木養浜工
	青	長期的な事かな? コンクリート構造物を部分的にでも試験的にとりのぞいてみてほしい。
	青	養浜
	青	保安林についての調査(場合によってはセットバック)
	青	砂抄工法
	赤	ヘッドランドも税金のむだなのでやめてほしい
	赤	突堤はつくらないでほしい(逆に砂がへる気がするから)
赤	ステップアップサイクルをふまえ修正をしにくい工法は行なわないで	
一ッ葉 PA 付近	青	流木養浜工

	青	一部 有料道路の高架化
	青	吸い出し現象の調査。滑動の心配がある。
	青	養浜
	青	テトラポットの撤去
	青	風車+ヘッドランド(エネルギーの利用・景観への配慮・観光資源)
	青	ヘッドランドの過去の事例の検証(ほんとうに有用?)
宮崎港付近	青	松林の復元・再生
	青	サンビーチツ葉及びフェリーターミナルの砂が堆積して困っているなら、侵食されている所に供給する方向で・・・(一石二鳥では・・・)
	青	不用の突堤を取除く
	青	宮崎港サンドポンプ→住吉へ
	黄	昭和46年5～6月頃、海岸沿いの海の中でアサリをとったことがある。泳ぎもした。
	黄	年毎に埋ってせまくなっています
	赤	テトラポットの多様を避けて欲しい(長期的な必要性?景観配慮)
	赤	ここも埋ってしまうのでは?
	赤	港湾独自で防波堤の延長をしないで。宮崎海岸の意識を
青島付近	黄	青島の海水浴場の砂の流出状況について現況をお教えてください。
	黄	青島の海水浴場の件、防波堤が出来て景観はよくなったが、砂は波もさらわれて少なくなっていないのか。青島の串間太夫の出来る以前に浸しょくがあるのではとゆう事だったがどうなのか?

※一人から複数回答があったものも含まれる。

以上